# 金葉和歌集

卜

# 金葉和歌集第七　戀六十七首

五月五日ノ比女のもとへ人のつかはせる

小一條院

ながらへしのちのためにあやめぐさ
かるこそたちをかねたりけれ

天徳四年内裏哥合ニよめる

中務

きみこそはこゝろにあまのうきなれ
ふかなくてゆく月日なりけり

女のもとつかはせる

大江匡房朝臣

尊經閣文庫
松井文庫

しの所ゝ[illegible]うらゝ[illegible]すゝ[illegible]ゝの
いゝ[illegible]海まきいゝ人なりさかむ

暁恋のゝ[illegible]ゝをゝゝ　神祇伯顕仲

さゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝのゝ[illegible]ゝ
ゝゝとゝ[illegible]ゝゝゝゝなゝれけゝ

頼宗公家[illegible]て宮ゝ[illegible]恋のゝ[illegible]ゝをゝゝ　少将公教母

きゝれゝゝゝまゝゝ[illegible]ゝ秋を[illegible]ゝのむゝん
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

七月七日人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後拾遺

[illegible]

[illegible]

藤原頼通朝臣

[illegible]

[illegible]

源雅光

[illegible]

[illegible]

後二條藤原親子家のさくしあはせ



大宰大貳長實

[illegible]

宣源法師

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原實房卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春宮大夫宴

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

あやしやいそちとうまき

天德三年内裏哥合

李院侍従

人しれすあの世よりかたるしれん
なるとうとういのちとういそん
しのろ意のこころをよめる

権中納言實行

きりのうちのこのうちのくらかりく
したなりとを言ふやうとや
月為意とゝろとはよめる

藤原基光



なるむれいうれしきみのうれしうた
くものいろいろれ秋の月

法名知

月はなるかのかなるいそれけり
いたづらもとゝのよしれん

和泉式部

秋の月くもの中なるまりにそ仏なる
月はなるかのあるとなる秋はつる

藤原知家卿

なりてはいかなるわれとくれ
なりの月のはなれとろるん
行路よりなる女のりそ道貞卿のうれ

[illegible]

行所にゆきてよめる　文野女

あかつきのいとかすかなる野まもりに
わすれがたきそなたなりけり

ゆきの日にあるべきものとおもへば
つれづれなり　源兼澄

ゆきもとけぬ袖のうへかな
けさいかるしむ物をとなりく
ゆきをてにとりてみるにのちは
つれづれなり　四条宮寄人



白雪のふりしくにはのしたれなみの
ゆくすえをいとはるるかな

寛行に家平に
長賢卿女

しらゆきのけさはいかにとはるるは
つれなきかをのこころなりけり

藤原道経

ふるとしをまつとやなれいる
なきこのゆのみをきなりけん

ゆきの日　女

なりてのあすはうちなびくかな

ひとめ川ゝみ紙をきりてあそばす

皇后宮歌

なにこのはすてのみをきもとりてゝ
ゝもひこもりさを立もすまうれ

恋の心をよめる　源俊頼朝臣

わすれくさしけりるやをきてゝ
なれのきりはなりけり

初恋のこゝろを　源頼国朝臣

かくこたにまきいてゝ
ひさかれる秋こゝろ

女のもとつかうまつれる　平祐挙



ひとのもとにまかりてゝ
ゝ
ゝ

川むすびてもわたるなるべし

野あきのしもりのうへにいとなとをれて
ほるる人のこゑもきこゆるはた

相模

あさつゆの野のうへのしもりのうへにも
ふるとやあるらん

月のあるをりをる人をまちわたるうら
きみるかりとゆのうへにやあるらん

いるまてに月をなをつるれ

かりにをる人のてにをりたるはたを
いとをかさりをりをりをれ



源頼光朝臣

なるまいはもきれはてしふのうれ

きりのうへのいまはうけるやあるら

五月雨はつるくてもいてるしること
もまはしをもてきもをはるうた

いとつりをる

相模

あやめもあるねまをなをうけし

いろのくものはつれわれ

四月はかりをるをりをれる後

五月をまてとまりをるまろ

栖雲通

なをもつくしたちまちてあやめくさ
あらりなくたくさなるうん

人のうつろふ　神祇伯顕仲

をのつゝかるゝかとのさむしろに
なるこのこゑなるをしるやは

人をうらみてつゝかる

藤原惟規

いけるむつのはをこゝのとわつくす
おももつれやみをくみむ

人のかたきたちかるゝをいかねを
いそ者とうのちはあいたる



一なをもちりかれいはれつゝかる

藤原宣家朝臣

あらう野よりのきつゝわくるものを
いたうみしのゝしのゝ

過不過定　藤原定家

をかいつゝちまちしうらけの
ゝれてゝゝいつ

後鳥羽院御歌十首へよりて物語
ちちくあのをといつゝと

皇后宮武蔵

あれみてのちつゝ[illegible]へく
[illegible]

三條院宮のみくとき[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

安法法師女

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

源道濟

[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

白河女院歌中

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

律師實源

[illegible]
[illegible]
[illegible]

西行院法師歌書合より

皇后宮肥後

たちいでしそらのつきをかたらはば
ひとりやとまるそてのしつくか

三宮大進

なつのよのくもまよりいでしつきかは
あかつきかけのかたみなるらん

藤原為教

つれなくてあけぬるつきのあかつきは
つらかりしかの

春宮女房

うつろはぬあきのつゆはかりかはしを
つきはかはりぬるものをなほ

皇后宮肥後

あかつきのつゆはかりかはしをは
うつろはぬあきのつゆはかりかはしを



皇后宮前掌

ものをもとふるとはなしにかはるかな
人はなほのこりのなかるるかな

皇后宮

きのふのそらくもりはてぬれは
なほうつろはぬのいろのつき

皇后宮

なつのよのつきはかりのいろのつき
いつしかのつきはかりてのこりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]



# 金葉和歌集第八　戀下八十四首

初恋のこころをよめる　良暹法師

かすみたちこのもかのもをしなべて
たそかれのそらにたちそめにけり

題不知　清少納言

ちはやぶる川なかにかけたるなりけり
たのめのくるしねはたのめしへし

右但御堂にもみちあるのりたる意と三
題をいとはかりなるをもくるよ
りてよみたるなれはこれ三

[illegible]一首

藤原[illegible]朝臣

[illegible]

[illegible]

源行[illegible]朝臣

[illegible]

天徳四年内裏歌合

中務

[illegible]



[illegible]の哥

藤原[illegible]朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]の山面に寄人[illegible]

藤原仲實朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月[illegible]

藤原則長

[illegible]

[illegible]

高階家忠女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

周防内侍

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のちの川さえ面さらへしとい
ひさ川のすまんのとわよあれやときて
古月古百つりうれ　源雅光

ちとりたにすれもあるあるの
あのきくりのちそうそうれ
ゆのりり川のりりうれ　藤原永實

ますます見を行つなるたあるれく
しれしとたもそうそうれね
家の寿人ゆるれ



いろみるねしろりりりりつれと　中納言國信
なるるるるるるるるるるーのとりれ
題不知
あのしいのめきちりそやきる紙
ちちちちみしとんよるれ
恋の寿とちちる　藤原忠隆
ちさあれとあるるなるふりるやるの
なけるたれるつしてくなりれれ
富のあるたんのまちちくかくなれ

てきたいいそかけのへこそ中それい

馬内侍

ひすれあいそうちのゆさのあそこて
きそうそうそまなりねいそわそ
和泉しきぶのひさくをもさきわを
れいつそうそう

高砂院肥前

やのさのそうやわそつまるもむ
ひそうそのをそうしもをね
もそうそに和泉すきちけそのまわ
まそいりそうそのちみたそういてなそ川



やなそうそねそれいまそてそそ

春宮大夫道定

和泉しきぶのまそなりそうそ
わけそうなそりのそうそになれし
恋のそうを

藤原実頼朝臣

水乃たたに白うしゆきはそうも
きそやそるそ志人のつそた

人恋の哥なそ勢伊そそ

相模屋下

あやそそわそやそきのゆそれ

たりしいつよりかをてしものを
あまのはらくもわけくるかりがねの
つらにくるかな
江侍従
つきをもまちあかしてあけぬるを
わがこころにもたれかしられし
ゆきてやそらに
藤原國經母
このあかつきのつきにたなびくは
人のつきぬるをしらぬ雲かな
うすきぬのあるにつけてもむしの
ねにたれくるもれ

六

高砂宮甲斐
いとゝ人のこゝろをそらのつきぬる
すきまをもとはゝ
弁乳母
たれしかきけるやまとの
なにのあるにかりのこゑ
思ふとはいつこゝろぞ
泡新房
ものをこそ
ものへはいそぐ
中納言資仲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堀河院御時歌合

中納言俊忠

人しれすたれあかつのうら風
なみのうへにいそ山かくれ

返し

つらゝ行平

たれこめてあるかのあるはつ
けしやそのねもそすれ
くれまちのれ
きつの月のたまくなるとてみまけ
れはよめる

橘成家朝臣

ちきりをきしこゝろもしらす



右の中月のうけもりとる

紀貫之

なつかしなをなをなつかしの
なれくもやとのこゝろそ
雪のあしたに羽弁のもとにつかはす
ゝ行ちりをきてつかはされ

羽弁

をちかたにたれとたにしかさなの
ゆきさきしらてけぬなきつれ

返事

大納言経信

みのかのゆきけのうへにてしら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつかたはつかりかな

後人五首

きえてゆくはるのなごりはなにのこるなるものとてつみてん

新勅撰入道前太政大臣

いそのかみふるさとのはるをわすれぬるはるのなごりはなにのこるなる

藤原宗資

みのはるはなにのこるなるねをしたにわけくるいとのうつりかな

周防内侍

まちくらすなかのうつりかなるまちくらすはるをしたふ

八五

源信宗朝臣

あかねさすはるのこころもしらぬとのあかつきのゆめのまもみるとはなしに

紫式部

人しれぬなかるるなみだかとのみはるのこころもしらぬとはなしに

右宮内卿経忠

あかつきのはるのこころもしらぬとはなしに

大中臣輔親女

あかつきのはるのこころもしらぬとはなしに

頭弁高家朝臣

源経通朝臣

いたづらなるこころもなきにあらねばこそ
こころゆきのもりもきこえけれ

三井寺にてのこの寺見たるにもれ
信親卿

ひしりこもりたりけんかたいとかなしむ
ひとりあれはいとうもれ
うつくしかるべきのかたちもこころ
ふかくなりてまことあるかたち
さまたれのこころをもちてなりもれ

信人卿

さまたれのそこにかのものこひまれくく



ひすまるかたちはたかりわかき
返し

屋敷清家

ひとりあれむかたちはたかりたるかたちにて
いとうもれたるかたちにてこころ
宮内卿をいとうまを

花園院御

あのことをこそあれ
ひのこころのこころやうれあるに
桜町中納言家

源雅光

こまれはあれはあれはこころのりしく

いとしたしうてもうしかわすこと

恋の哥十首人々に分ちつかうまつりて

よしなしごとをいつること

藤原為家朝臣

夏草は深くなりぬ

常なれぬ人の心の

なびくなりけり

源仲正

あるやうにいまはたのまじ

なにかはつれなかるらん

内大臣家の女房

かくりのみたのもしかりけれ



めぐりあひてまけてあいねをうれ

相模国の家にてはあるべきことなり

源頼国朝臣

いつしかの志賀の

さまざまにわかれくるかな

藤原人名和

あまくものうへ

わかれしのぶ風のおとをねの

あはれきのやまのくらなりけり

かつらをなりけり

しのぶのうへをあるらい

人のこころをとわのこまくれば
をれこそまさるやわらの人のなりけるこころ
あれこそまさるのこころや



# 金葉和歌集第九　雜上九十八首

むしの道方卿よそをりてこまうけてまうけて
おもふをまつよりてみ侍りける梅の
ちりはてにけるまのをりにさそはれて
花のたにの木のなりてさきそめにけ
みく

大納言経信

神のまにむしのわのこむしのいれ
ちりにたりけるたなるまたにうもれ

出家の心を

藤原長房

やまとのもうきまの中ををもるしねは
谷のこころにすわをのこころふく

因宣なをれをのぶして後三條院の序
まなを仕りいてゝよき哥あつ
三つ
うへなきこゝまんもなきたらへく
それいかゝ月はしらすしらすすし
白河のよこもりて井わるまきてあ
はるさりくれはつゝりくれ
宮治入道前太政
さのとをとゝあきてつうくれすし
ふりはをくさのくれわ
ふとゝりくるあすのゆふくく



ゆきあめのあしたこゝもはるなるこゝ
こゝ海にものをはるなるこゝ
花見序をみくいしのふりのゝ
へつりくゝ
信濃守永徳
ゆきもの中とゝのはるのゝ
いとくとはるのゝ
遍
内府
いとくも言ゝつゝ
はりこゝつゝ花のこゝをを
大納言為世卿

久遠寺

徳行尊

もろこしにあつれとも仏法へやうやうに
さかりなりかたしらんをもし
堀河院の御時の人々あさうして也
みありさうに和尚より宗調ありと
きてきんしやあるとをもひて仏法仕
門つかうまつりけれ

源行宗調長

いとをかしかれなりわんもろ人の
さかりなるをすきいり
山家に入てもの言をみけるよ



源宣宗調長

られ入い吉野のやまあさうられ
行をしわやをのむをはき
宇治入道前太政大臣殿の御
の家にまかりてかうま
なむあるをいしのやとをいれて
いりかうつりかう
る間

なのとなりやをうきのみの
あるのりしてをやうなりをと
新入行をして陸奥の陰侯ふかうう

右中弁俊定卿

藤原俊定朝臣

やまのさくら花の一つ一つの色なりと
雲井のさくらなれしらん

後三条院御代の歌合

春歌

ちるとみしはなのいろかはりはてぬ
むかしのはるにあらぬなりけり



藤原頼仲朝臣

ちりはてしはなのいろかはりはてぬ
むかしのはるにあらぬなりけり

常寂院御歌合

春歌

ちるとみしはなのいろかはりはてぬ
むかしのはるにあらぬなりけり

陸奥国

みちのくにすまるるものはなにをか
さくらをよそにおもはざるらん

右近衛

ちるとみしはなのいろかはりはてぬ
むかしのはるにあらぬなりけり

右近衛

ちるとみしはなのいろかはりはてぬ
むかしのはるにあらぬなりけり

やとて有川とぬし川とぬしの子り
信濃守ときてとりけるときみちくく
よりて　藤原定綱
かさこ一のこゝろのうつてうときたく
くりめのりのりのまそありてうまれ
隆家卿左遷時
まれかしこのやしまわたりたるとき秋
ものゝ〳〵すきの秋なりて時の
つきうさすてうまろ
神主大膳武忠
ちやうしのこゝろのまのそ秋



みていたさる者ワうこと
源定宗
けるまやまを見けるに山のかり
ようち
良暹法師
をくつまとしらかをとと
ものかさりもちらしまれ
宇治前太政大臣の母の所まんとに月の所
ようなりけるまとれはよりはれ
よへをりてりけりる
源雅光
うとやさうれつきて月のよ

しらねたのゝ川ぞあはれなりけり

天王寺にまゐりて井の水をみてゝ

藤原院

ゝ

まゝはゝのもとの井のゐ川をむすんあはせて

ゝのちゝ絶すゝてゝ

信濃相模君元服山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月

のあかつき出川ゝゝゝゝゝ

相模元

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月

返し

信濃君



ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大江匡房

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

藤原重家朝臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

河原院に松をうゑ
源道濟

ゆくすゑの
松さへいたく
老ぬれば
身にしらるる
かな

松をうゑて
松の
いくかへりの
春をへぬらん

太宰大貳高遠

一品宮天王寺に
詣でたまへる
のぶ
の人
こ
ま
ら



ありて
ながらへ
ぬ人は
源後拾遺

いとゞ
ものを
思ふ
ぞ
ま
ま
ま

めさめぬるかはのあけぼの
しらぬひきてくらすさとの猿とをも
とをいはけるこゑ

橋津

ことのねやかすかよかよふ
ちとのさゝやきはいかはへさらん

遠し

うれしとも秋のこゝろやこのうたせよ
うゐことのねのうつるたわすれ
月のあつまるもとくをきて
てよめる

白石神淵



ことのねの月のけはしかへりや
うつしへみさのわたりん

伊勢の海の見の浦よりそ

本居宣長

をちこちの月のあさのこゝろも
ゆきかよふうなかのむこゝろ

宇治若菜下布引瀧みよりもはれ

大酒言綱信

しらなみとたゝいはのれきの
やまとをとろきをかけるをとを
はれしきたるわてはすゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
和泉式部保昌に具して丹後に侍りけるころ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

武部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言通[illegible]の[illegible]
[illegible]と人の中[illegible]

相撲

いたきむやまたうつ[illegible]
[illegible]の[illegible]
肥後国[illegible]
[illegible]

極河院殿御製

つ[illegible]れ[illegible]
[illegible]
水車をみ[illegible]



[illegible]

信西[illegible]

[illegible]水[illegible]海
[illegible]
[illegible]
門院[illegible]
[illegible]

極河殿御

[illegible]
[illegible]

御遊し

[illegible]月[illegible]
[illegible]

東門院

[illegible]

大納言宗通

[illegible]

[illegible]

橘平伝

[illegible]



[illegible]

後崇徳院御製

[illegible]

みなもと

[illegible]

平安國

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いにしへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原信母

[illegible]

源俊賢朝臣

[illegible]

菊仲朝臣陰関宗[illegible]

[illegible]



[illegible]

藤原隆資

[illegible]

[illegible]

藤原實光朝臣

[illegible]

屏風に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大中臣浦助登[illegible]

[illegible]

いろりけり[illegible]

[illegible]

草はのなかにも[illegible]

[illegible]

六藤左右六藤の家[illegible]

[illegible]

[illegible]

頭雅御母

[illegible]

百七

[illegible]

六条右平六院寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

忠度法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]園基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

讀人不知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

源時賢朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源頼國朝臣

[illegible]

なをこちらこそすきまきこゆるこの
新大納言のこうのもとりてまつる
つりしらう　藤原為家
雲のうへはなれうしのをあしたの
あをしとてうたにもあるやうなれ
堀河院御時後宴和歌中文
ようへうこ中納言資家仕て後
ときつりしらう　源俊頼朝臣
りのひかりあまねきそのうらなる
ひかりのうつりてうれしい

草

これを奏しうたの内侍関白をもて
返しやとたまはりてかへつてまた
同行　関白内侍
なるまたはなのあるしらくも
やはりさくらのまさるこのまさるむ

公實卿かくれ侍りける家に
ちりとまりたるもみぢを
みてよめる　藤原基俊

むらしぐれかりそめにのみ
ちりはてぬるかなもみぢの
色

中納言

ねもとにはちりのこりたる
もみぢのみをとはるるかな
人にあらしてもとはるまさてのこる風を



平等院
さらしなの山にいでしかの
ちりはてぬるかなもみぢの
後三条院かれにまてのこる青葉一品
宮の所帳に昌蒲の
ちりはてぬるをみるにつけて

藤原有信朝臣

あやめぐさねをのみなかの
ちりはてぬるかなもみぢの

如意輪寺の天王寺にまゐりて侍りける

六條皇后

なにはのうらのあしのねのしらぬまに
しらぬゆめにぞ
[illegible]

[illegible]院[illegible]おりゐてはべりける[illegible]の秋

[illegible]

康資王母

うらうちにまれにとはれしをも
[illegible]

下[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]



[illegible]

清輔朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言隆房

[illegible]

後三位藤原賢子

藤原賢子

[illegible]



檀作西来図

[illegible]

讀人不知

[illegible]

[illegible]

和泉守

[illegible]

平宗盛卿

[illegible]

陽明院[illegible]

[illegible]

藤原定信

[illegible]

[illegible]

白河女院[illegible]

[illegible]

僧正行尊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月のあるまとに　勝西法師の歌合

[illegible]　僧正行尊

いにしへの[illegible]のうらさびしさ
[illegible]秋の月

寂蓮法師

[illegible]

[illegible]

八月十五夜月のあるまとに阿弥陀
仏のひかりのごとくにてらせばらせばたち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

選子内親王

[illegible]

[illegible]

法花経の四句をよめる

皇太后宮肥後

[illegible]月のなかにて
[illegible]

清海法師

[illegible]

かくしてあらしの風のみぞはげしく
ちるものうつるためしおそれもなし

普賢十願文を願我臨終命終時を

賛樹法師

いのちをもつてかへりきたらんとすれども
第五品のこころをとる

信受歓喜

あるときは一のやうに風なきをは
うちものうつの面をとるべし

拾遺和歌集

夏

瞻西聖人

やまとのくにのうちにまことをもとめ
なにはのうらのうちにわかれをなげく

白居易樹下所詠

なかのうちにうつるものをみてるつきを
きくうちにうつるものをみてるつきを

不軽品のこころをとる

拾遺和歌集

あれてこのやどのにはにしのかぜ
うちうちにみるものはたれとしらねど

源氏物語

須臾の間のなかにもとめ

[illegible]

某品のこころを

懐寿法師

うきよをしのぶとすれどあまをぶね
のうきこころをつけねかなしき

人のかたこそ経巻書しるすとて五百才を船
の母をたづねてきて価珠のごとくなる
けるをきいてかりたるこころの奇
よくこころのいうにむすばれつけく
いりたるをこころかつてよろこ



## 相伝必秘録

いろにてこころのたまをゆしるわらん
たりなりけれ人をあるこころに
伝授の人のたまにつくるこの男の
ろのこころとゆるいろゆるこころ

懐寿法師

いはをいとなたるこころのの
けろのかのようにすけるこころ

常住四月輪といろこころゆるこころ

證菩法師

夜ともたにこころのこころよむ月を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河法師はとゝなのうらゝにゆうしてや
うらゝにまつらるゝらん

源後拾遺

連歌十一首

井ゝりのうらゝにわのうたにゝゝ
つゝらゝのゝのゝたゝにゝゝゝゝ
あゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

永盛法師

みゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

俊成卿女

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

頼慶法師

ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

左資朝卿

賀茂のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

南助

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

行意

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

けうをうく　　伊正源覚

たうの田よりいりわたされて

くるのうれうるに水をいれたや　　宗法道家

日のいるまで　　観暦法師

ひのいるまでれたる井のうるおひ

あるねうすもなりたるうれ　　平為成

田中より馬のうるをうく

田よりむうの海のうるさうり　　永海法師



なりしるの水まるのけとみうれと　　永成法師

かりしやをうて　　後人元知

かりしやのいうまるうれ　　助後

川うれしてやうむ

川うの志をうく

てれるくうるうしのうれ　　為助

ゆうるりの月のいうまるうて　　国忠

宇治へまうでけるみちにてけるあるあ
ふれば水のうへにうきのはのうかれゆくを
をりてまきてやるとて　　杉堀殿
かりの袋のうきてもわるるかな　　行堀
うきてなほをしきかりかな　　後の五郎
あるをしきく
なきてあるをあるをいとをしん　　建房
うみのよにうきしものをなげうれ

和泉式部の賀茂にまうでけるに
川にあるをくれてのぼるをみてよめる
なく　　神主忠親
ちはやぶるかみのみたらしあらまくの
れをしーーのやしろとらん　　和泉式部

# 拾遺集者　白河院御諚仰撰

朝臣　院宣　惟宗天治元年　勅

大治元年　奏上　此集年号宣旨

豊治元年　奏聞　嘉承元年　初度奏聞

一書三度　申云

とし年よりとりあつめられたる

みなれまきらはすのこと

第二段 [illegible] 一書曰 [illegible]

[illegible]

此神 [illegible] 流布也 [illegible] 二段注 [illegible]

第三段 [illegible] 一書曰 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 第五段 [illegible] 注 [illegible]



[illegible] 自 [illegible] 造 [illegible] 仲 [illegible] 拾遺

集 [illegible] 集 [illegible]

一指南

Y 8,800
系1
8

天保九戊戌年十月

藤園塾蔵

百六